

# まつのみ

第42号 令和6年4月  
 発行元 社会福祉法人まつのみ福祉会  
 発行人 田中 祥之  
 〒580-0023  
 大阪府松原市南新町 1-10-2  
 TEL072-336-3233 FAX072-334-6466  
<http://www.matsunomi.com>

## 新たに

新年度を迎えました。街なかで真新しい制服やスーツに身を包んだ新入生や新社会人を見るにつけ、こちらも新鮮な気持ちになります。

まつのみにも新たに利用者さんが契約されています。にぎやかにあって、うれしい限りです。一方で、長年まつのみで過ごされている方も多く、高齢の方も増えていきます。当然利用者さんとともに家族さんも年を重ねておられるので、今までと同じ生活を続ける事が難しくなった方もおられます。いろいろなサービスを組み合わせ生活を作り立たせられるように工夫が必要になっていきます。その手段のうちの一つである、グループホームで生活をされる方も多くなりました。近年、他の事業所さんのグループホームも次々にでき、以前に比べて多くなりました。全国的に見ても多くの法人がグループホーム事業に参入しています。入居される方にとって選択肢

が広がる点は良いことであると思っておりますが、同時に玉石混交でもあると感じています。

日中をまつのみ利用の方で、他事業所のホームに入居する方も増えていきます。他事業所という事もありしつかり連携をもってサービスの提供をしています。入居者の方にとっては生活の場であるので、いかに安心で充実した生活が送れる場所になるかを常に考えていかなければなりません。当法人のグループホームもそんな場所であるように日々努力をしております。

4月から報酬改定が行われました。より良いサービスを目指す事を基本として、虐待防止はもちろんの事、利用者にとって安心安全な生活を送れるように、事業所も適切なサービスを提供できるようにするものです。情報の記録や公開、開かれた運営など、場合によってはこれまでより職務的に手間の増える事も盛り込まれています。業務の増加にもつながる事にもなりますが、一方でそういった線引

きをしないと正しく運営されない事業所もあるという事です。そういう事業所で支援を受けている方にとって、速やかに正しい支援が受けられるように考えると、これも仕方ない事かなと思います。その場所で生活されている方はその場所にしかいません。『障がい者』とか『利用者』である以前に名前のある一人であることを忘れてはならないと思います。そのことを胸に刻みながら、なによりも、まつのみに関わっている人たちにとってまつのみで良かったと思っただけのようなサービスも、職員一同提供していきたいと思えます。

【統括】



# 新年度

春になり過ごしやすい季節がやってきましたね。最近の夏はひどい暑さが長く続くので、この時期を大事にしたいところです。ああでも、花粉症の人はつらいですね。まあ、冬が好きな人もいますし、秋の雰囲気好きな人も多いですね。ちなみに私は全部好きです。ん？なんの話でしたっけ。

さて、昨年度のB型はコロナや世界情勢の影響もあり、今まで取り組んでいた作業が少なくなったり無くなったりといったこともありました。が、一方で新しい作業をいただいたり、新たに清掃業務を始めたりもできています。

そんな変化のある一年のなかでも、なにより！新しい利用者が仲間に加わりました。作業室もさらににぎやかになっております。

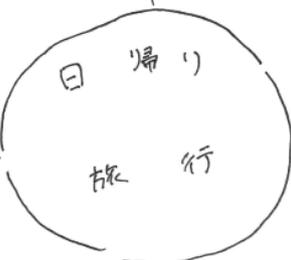
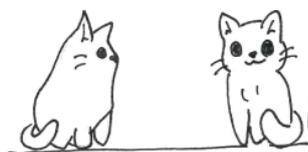
今年も、利用者ひとりひとりの毎日が素敵な日になるように。一日を大切に職員一同努めてまいりますので、みなさまよろしく願いいたします。



## 和歌山

仲間と一緒に  
動物とふれあう

おいしい物 食べ



いっぱい果物に果って

たのしかった～

## 避難訓練



今日は避難訓練。今回は地震を想定したものです。YouTube で見つけた災害用アラームを作業中に鳴らします。「地震です！隠れてください！」の声とともにみなさん素早く机の下に。「揺れがおさまりました！外に出ます！」と外へ避難します。物が倒れたていで出しておいた段ボールの箱やいすを慎重に避けながら。はい、避難完了です。みんなあせることなく、でも速やかに行動することができました。

避難の次は、これまた YouTube を利用して防災関係の動画を観ます。震度7の揺れを体験している映像を見たり、防災クイズにチャレンジしたり。さっきはうまく避難できたと思いましたが実際に揺れている映像を見ると、この机は倒れてしまうかも、廊下も通れなくなってしまうかも、外へ逃げるときは頭を守るものがあるといいな、などなどいろいろな気づきがありました。窓の周りも片付けておかないとね、ヘルメット代わりにあの箱をかぶったらどうかな、とかみんなと一緒に話をして考えました。いざという時の備えと心持ちが上がった気がします。

普段から非常時について考え、準備しておくことが大切だと改めて感じた避難訓練でした。



## 工房まつのみ

昨年、電気窯が新しくなり陶芸を再開しています。ながらく置いてあった土や釉薬も使うことができるようになりました。陶芸の土も残り少なくなってきたので、先日利用者さんと一緒に信楽まで購入に出かけました。たくさんの信楽焼のタヌキに迎えられ、陶芸作品の展示なども見学しおおいに今後の作製の参考になりました。

窯のサイズは小さくなったのですが、その分取り回しがよくなり焼くペースも上がっています。しばらく使っていなかったため乾燥してしまった釉薬を水で溶かしながら、「これはどんな色やったっけ」などと思い出しながら焼き上げています。

陶芸教室も再開し、教室のみなさんも意欲的に作製しておられます。お近くの方はぜひ陶芸もご覧ください。



今回は府営住宅のホームに入居しているOさんにホームについてアンケートを取りました。

◇ホームでは何をして余暇を過ごしていますか。

○ホームで塗り絵をしたりしています。そしてテレビをみたりしています。

宿題をしたりしています。

◇この1年間で楽しかったことを教えてください。

○ホームやワークで仕事をしたり、とても楽しい1年間でしたよ。これからもワークで仕事をがんばります。

◇おいしかったごはんのメニューを教えてください。

○カレーライス、とんかつ、おかし。



生活支援センター  
れいんぼう

＊ 合理的配慮をご存じですか ＊

「合理的配慮」とは、障害のある人から社会的障壁を取り除くために何らかの対応を必要とする意思が伝えられたときに、過重な負担とならない範囲でできる対応をすることです。

国の行政機関や地方公共団体などと同様に、事業者にも合理的配慮の提供が義務付けられました。

☆たとえば（合理的配慮の具体例）

- ◇車いすの利用者などのために、店舗などの出入り口にスロープを設置するなどして段差を解消する。
  - ◇障害の特性に配慮し、説明書やパンフレットなどの文字を大きくしたり、ふり仮名をつけたりする。
  - ◇聴覚障害のある人に、ホテルや施設の受付などで、筆談や手話など音声以外の方法でコミュニケーションをとる。
  - ◇レストランなどで、視覚障害のある人にメニュー内容などを店員が読み上げながら説明する。
- などがあります。

環境が変われば  
ハンディキャップは  
生じないね！

